

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

現在の定時制高校は、これまでの勤労青少年の後期中等教育機関としての役割とともに、全日制高校中途退学者や不登校経験者、学習障がい等がある生徒等、さまざまな学習目的や動機をもつ生徒の学び直しの場として、また、社会人の生涯学習の場としての機能も果たしている。こうした状況を踏まえ、社会の有為な形成者としての基礎を培う全人教育並びに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活のリズムを乱さない等、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

(1) 「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。さらに、社会で必要とされる生きた学力を身につけられるようにする。

ア 授業内容や指導方法、学習教材を工夫し、生徒の基礎学力を定着させる。

イ 観点別学習状況の評価の目的を理解し、指導と評価の一体化の観点からPDCAサイクルによる授業改善に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業に関する項目の肯定率を毎年引き上げ、令和6年度には75%以上にする（R1 73%、R2 73%、R3 73%）。

2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

(1) 互いを尊重しあう精神を養う。人権感覚を養い、自他の人権を守ることができるようにする。

ア ホームルーム活動や学校行事、部活動を通じて自主性を高め、協調性を育てる。

イ ホームルームや総合的な探究の時間を活用して人権教育を実施し、人権感覚を養う。

※生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目の肯定率85%以上を維持する（R1 85%、R2 86%、R3 87%）。

(2) 生徒の課題や背景を踏まえ、生徒のサインを的確に捉えて適切な対応を行い、生徒の自己実現を支援する。

ア 家庭との連絡を密にし、基本的な生活習慣を確立させる。規範意識の向上をめざす。

イ 計画的・系統的なキャリア教育を行い、卒業後の進路について考えられるようにする。

※生徒向け学校教育自己診断における進路に関する項目の肯定率85%以上を維持する（R1 81%、R2 83%、R3 90%）。

(3) 学業継続が困難な生徒に積極的働きかけ、課題解決への支援を行い、学校への定着を図る。

ア 支援委員会を核とし、組織的に生徒を支援する。

イ SSW、SC等との連携を図り、相談体制を充実する。

※令和6年度には、文部科学省公表の平成30年度全国公立高等学校定時制課程中途退学率9.3%以下を目標とする（R1 16.3%、R2 16.7%、R3 13.9%）。

3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進

(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な運営に努める。

ア 校内研修の実施やOJTにより、教職員の資質を向上させる。

イ 学校運営組織の効率化を図り、勤務時間を縮減する。

※教職員向け学校教育自己診断における校務運営に関する項目の肯定率を毎年引き上げ、令和6年度には85%以上にする（R1 100%、R2 85%、R3 80%）。

(2) 保護者や中学校、地域等に、教育目標や教育活動について情報提供を行い、地域とつながる学校づくりを推進する。

ア 学校Webページ等を活用し、幅広く積極的な情報提供を行う。

イ 保護者や中学校、地域等との相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。

※保護者向け学校教育自己診断における情報提供に関する項目の肯定率を毎年引き上げ、令和6年度には90%以上にする（R1 85%、R2 93%、R3 89%）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのが楽しい」の肯定率は、1、2年が非常に高く、3、4年が低い。昨年、一昨年在コロナ禍により学校生活でも制限されることが非常に多かった上、ほとんどの学校行事が中止となった。本年は一定の制限下でも全て実施できていることにより、「学校が楽しい」と感じる要因として、集団生活における楽しさを味わうことができているのではないと思われる。特に、1年では極めて高い肯定率となっている。全体としても、昨年より7.6%上昇している。 <p>【授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率は75.6%となり、年々上昇している。一方、約1/4の生徒については生徒の理解度に応じたきめ細やかな指導方法を考えていく必要がある。 「先生に質問しやすい」の肯定率についても、上昇が続いており84.6%となった。積極的に質問をすることを苦手とする生徒についても、質問しやすい環境づくりが必要と考えられる。 <p>【教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」について生徒および教員の肯定率はそれぞれ76.9%、80%となったが、2割ほどの生徒にとってはハードルの高さがある。一方、「悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定率については89.2%であり、日ごろからの生徒観察により声掛けがしっかりできていることがうかがえる。 <p>【部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率は68%であり、「部活動は活発だと思う」の肯定率が83.1%となった。コロナ禍により停滞していた部活動が活発な状況となっている。 	<p>第1回 令和4年7月1日（金） 18:00～19:00</p> <p>○今年度の重点的な取組みについて協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 中退率、出席率、卒業率などの数値データは、協議のベースとなるものであり、毎年質問の出る項目であるから事前に示してはどうか。 中退防止について、2年生以上の生徒へのアプローチ方法も示していただきたい。 部活動加入率の設定目標をもう少し頑張ってもらいたい。(50%以上) 教員負担の軽減のため、更なる外部(SC、SSW)との連携強化を考えてほしい。 不登校生徒へのアプローチ方法をもう少し模索してほしい。 生徒会執行部など生徒の学校運営への参画の機会を検討してほしい。 <p>第2回 令和4年12月1日（金） 18:30～19:40</p> <p>○学校経営計画の評価指標に準じて課題の原因や改善方法を重点的に協議</p> <ul style="list-style-type: none"> SSWやSCといった外部の人材を有効に活用し、先生方の負担軽減に繋げてほしい。 部活動の加入率が上がっていることは非常に良いことだと感じる。コロナ前に戻ったのか。 質問項目のなかで、「効果的に」などなにを意図しているのかわかりにくい表現が見られるため、具体的なものに変えてはどうか。 保護者が自分の子どもに対して、より関心が持てるように学校がしっかりと情報を示していくことが重要と感じている。 学校教育自己診断の保護者の回答率は以前より課題意識があった。特段の策を講じて改善されたのであれば評価できる。 スクールミッションについて、学校の方向性を明確化することが目的だという話があったが、やや抽象的な部分や多重に読み取れるような要素があるように感じる。 <p>第3回 令和5年2月9日（木） 18:00～</p> <p>○学校経営計画の評価指標に準じて課題の原因や改善方法を重点的に協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な取り組みの中にある表現の方法に一貫性がないように感じる。書き方の構造

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの項目で肯定率が低くなっている。特に、「校長のリーダーシップ」については30%、「学校運営に教職員の意見が反映されている」については55%しかない。日ごろから教職員とのコミュニケーションをよりしっかりととり、納得感のある学校運営を行っていくことが今後の課題となる。 	<p>を見直してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> データを蓄積し、見える化していることは協議会としても議論しやすい。今後もお願いしたい。 自己診断の結果について、同学年の4年間の推移も分析の対象としてはどうか。 自己診断の分析内容についてはぜひ公表されると良い。 学校経営計画の目標と取り組みの位置づけが逆転しているような箇所が何点か見られる。 学校評価にあたっては定量的なものだけでなく、定性的なものも含めながら状況が見えるようにしてはどうか。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実	<p>(1)「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。</p> <p>ア 授業内容や指導方法、学習教材を工夫し、生徒の基礎学力を定着させる。</p> <p>イ 観点別学習状況の評価の目的を理解し、PDCAサイクルによる授業改善に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ICT活用指導力を向上させるために校内研修を実施し、1人1台端末を効果的に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学、公開研究授業、研修等を通じて、授業力の向上を図る。 ICTの活用やグループ学習を取り入れるなど、生徒が能動的に参加する授業展開を行う。 <p>イ・カリキュラム委員会が中心となり、各教科の観点別学習状況の評価の実施状況を確認し、課題の解決を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ICT活用に関する教員向け校内研修を2回実施する。[3回]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断結果における1人1台端末の活用に関する質問での肯定率75%以上。[新規] 授業見学週間を2回実施する。[2回] 授業アンケートにおける「授業に満足している」3.5P以上を維持する。[3.55P] <p>イ・観点別学習状況の評価について、各学期に教科内で振り返りを実施し、改善等を検討できたか。また、学校全体で共有できたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ICT活用に関する教員向け研修を2回実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における1人1台端末の活用への肯定率は89.7%で目標を大きく上回った。(◎) 授業見学週間を6月、10～11月に実施。(○) 2回の授業アンケートでの満足度は、3.66Pであった。今後も授業改善に取り組んでいく。(◎) <p>イ・学期ごとに、各教科において振り返りを実施し、カリキュラム委員会において共有を行った。(○)</p>
2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援	<p>(1) 互いを尊重しあう精神を養う。</p> <p>ア 学校行事等を通じて、自主性を高め、協調性を育てる。</p> <p>イ ホームルーム等を通じて人権感覚を養う。</p> <p>(2) 生徒の自己実現の支援</p> <p>ア 基本的な生活習慣を確立する。規範意識の向上をめざす。</p> <p>イ 卒業後の進路を考えられるようにする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動体験の複数回数実施等、部活動参加を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事に生徒の意見を反映させ、生徒の積極的な参加を促す。 <p>・SNS等インターネット上での差別やいじめ等が起きないように計画的に人権ホームルームを実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・基本的な生活習慣を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体ですべての教員が統一的な指導を行えるよう生徒部を中心とした生徒指導体制の再構築をめざす。 「ねらい」や目標を伝えたり、振り返りを行ったりするなど、導入時を工夫することで、授業を集中して受ける姿勢をつくる。 <p>イ・計画的・系統的なキャリア教育を行うため、4年間のアクションプランを示した「春定プラン(仮)」を策定する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動参加率45%以上を維持する。[49%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断結果における行事に関する質問での肯定率85%以上。[体育祭84%、文化祭84%] <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における人権に関する質問での肯定率85%以上を維持する。[87%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断結果における生徒指導に関する質問での肯定率60%以上。[47%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導に関して、全教員で共通の指導方針をもつことができたか。 授業アンケートにおける「授業に集中して取り組んでいる」3.5P以上を維持する。[3.59P] <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路に関する質問での肯定率85%以上を維持する。[89.7%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動体験週間に積極的に加入を促し、部活動加入率は68%となった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の行事への肯定は、体育祭89%、文化祭90%。(◎) <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する肯定率は83%となった。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断結果における生徒指導に対する質問での肯定率は65%となった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒部で生活指導についてのマニュアルを策定することができた。(○) 2回実施した授業アンケートの平均は、3.69Pであった。今後も継続して指導していく。(◎) <p>イ・「春定プラン」を1年次から活用するものとして新たに策定を行い、活用を開始した。生徒向け学校教育自己診断の進路に関する肯定率は93.6%であった。(◎)</p>

府立春日丘高等学校 定時制の課程

	<p>(3) 学校への定着を図る。</p> <p>ア 組織的に生徒を支援する。</p> <p>イ SSW、SC等との連携を図り、相談体制を充実する。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・支援委員会を核とし、組織的に生徒を支援する。スクリーニングシートの活用等、生徒の実態に応じた支援を考える。</p> <p>・過去に中退した生徒の原因について分析し、中退防止につながる取組みを研究する。</p> <p>イ・SSW、SCとの効果的な連携や活用について検証し、相談体制の再構築をめざす。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における相談に関する質問での肯定率85%を維持する。 [87.2%]</p> <p>・中退率13%未満にする。 [13.9%]</p> <p>イ・SSWが参加するケース会議を年間25回以上実施する。[25回]</p> <p>・SSWやSCが参加する支援会議を年間10回実施する。[10回]</p>	<p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における相談に関する質問での肯定率は89.7%となった。</p> <p>・中退率は5.3% (◎)</p> <p>イ・SSW参加のケース会議を28回実施した。(○)</p> <p>・支援委員会を12回実施した。(○)</p>
<p>3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進</p>	<p>(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な運営に努める。</p> <p>ア 教職員の資質を向上させる。</p> <p>イ 学校運営組織の強化と効率化。</p> <p>(2) 地域とつながる学校づくりを推進する。</p> <p>ア 積極的な情報提供を行う。</p> <p>イ 相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員の資質向上に向け、校外研修の伝達講習や校内での勉強会などを実施する。</p> <p>イ・教職員一人ひとりの意識を改革し「働き方改革」を学校全体で推進させる。</p> <p>・運営委員会を中心とした学校運営体制の構築をめざし、目的の明確化および意見交換の活性化を図る。分掌・学年などで振り返りや総括を行い、さらなる校務運営の活性化を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校Webページを刷新し、これまで以上に情報発信の充実に努める。</p> <p>イ・中学校訪問と中高連絡会の効果を検証し、出身中学校等との連携がより強化できるように方法を見直す。</p> <p>・学校教育自己診断や行事でのアンケートなどで保護者の思いや期待を収集し、学校との協力体制の推進に活用する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・職員会議後のミニ研修を年間4回以上実施する。 [4回実施]</p> <p>イ・時間外在校等時間が月45時間以上の数を年間延べ18人にする。 [20人]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断結果における校務運営に関する質問での肯定率85%以上。[80.0%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・新しいWebページのブログ機能を活用し、部活動や学校行事等を紹介する。100回以上更新する。 [115回更新]</p> <p>イ・中学校訪問および中高連絡会の目的や必要な情報を明確にし、全教員で共有できたか。</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率80%以上。[75.9%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・人権研修や、育てたい生徒像などについての研修を5回実施した。(○)</p> <p>イ・時間外在校等時間が月45時間以上の延べ人数は13人。(◎)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断結果における校務運営に関する質問での肯定率は82.5%となり目標値を下回ったが昨年度より改善が見られた。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校WebページをCMSへ移行し、刷新した。学校紹介や生徒たちの学校生活の様子を発信するとともに、学校説明会の受付もフォーム作成ツールを活用して行った。更新回数112回。(◎)</p> <p>イ・中学校訪問については、生徒支援のためのもに限定し、PRのためのものは中止とした上で、中学校教員向け学校説明会を2日間、時間をずらし計6回実施した。計10校の参加があり、ニーズのある学校に対し、ていねいに説明を行うことができた。</p> <p>・中高連絡会については、2回(4月と10月にそれぞれ2日)実施し、有意義な情報交換ができた。</p> <p>・周辺市進路保障協議会、適応指導教室9か所を訪問し、中学生や中学校教員、保護者や地域の本校に対する期待やニーズの調査を行った。(○)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率は83.3%となり目標を達成した。(○)</p>